令和　６年　８月「月　報」

１　はじめに

２０２３年度の自衛官採用者数が陸海空３自衛隊で９，９５９人であり、募集計画に対する達成率が過去最低、前年比１５ポイント減の５１％だったことが公表されました。

「一般曹候補生」は前年比１９ポイント減の６９％、「自衛官候補生」は前年比１３ポイント減の３０％で、制度創設以来最低だったとのことです。

新たな力の入隊は、彼ら自身に能力を付与するだけでなく、教育に当たる隊員の実力を向上させます。教育終了後に部隊に配置されれば、配置先の若い隊員に、後輩を持つ喜びと後輩の手本となるべく努力する気持ちを持たせます。

それらが相乗効果を上げて、部隊の任務達成能力が向上します。

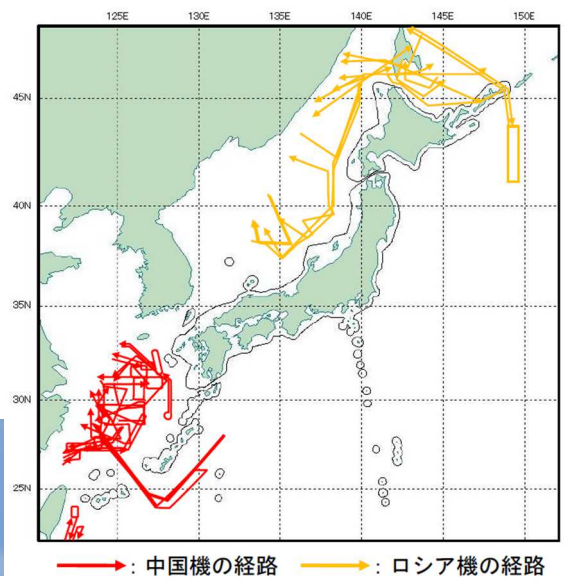
少子化もあり、景気の動向もあり、様々な困難がありますが、引き続き防衛意識の普及高揚から、隊員募集への協力を展開してまいりましょう。　よろしくお願いします。

２　防衛省・自衛隊の活動（写真、図表は各幕、駐屯地・基地等HP 等より。）

（１）２０２４年度１四半期（２０２４年４月１日～６月３０日）の緊急発進実施状況は１５９回であり、年度全体の緊急発進回数が高い水準で推移し始めた２０１３年度以降の実績から見れば平均的な水準にあると発表されました。

推定を含め、緊急発進回数の対象国・地域別の割合は、中国機約６６％、ロシア機約３３ ％、その他約１％、方面隊別では、北部航空方面隊が４４回中部航空方面隊が５回、西部航空方面隊が２８回、南西航空方面隊が８２回とのことです。

２０２４年度１四半期においては、東シナ海における中国の偵察／攻撃型無人機ＷＬ－１　０の初確認、中国無人機の長距離飛行や沖縄本島と宮古島の通過など、中国機による活発な活動を示す事例がみられました。



WL-１０ →

（２）　**７月１２日、防衛省は令和６年版防衛白書を公表しました。令和６年版**防衛白書は、我が国を取り巻く安全保障環境や、戦略３文書を踏まえて進めている防衛力の抜本的強化のための防衛省・自衛隊の取組を、分かりやすく理解できるよう、令和５年度の事象を中心にまとめられています。また、小中高生にも、安全保障について理解を深めてもらうべく、防衛白書の内容を分かりやすくコンパクトにまとめた「まるわかり！日本の防衛」も同時に公表されました。

詳しい記事が「おやばと９月号」に掲載されます。

（３）　陸上自衛隊は７月２８日から８月７日までの予定で、西部方面隊と第３海兵機動展開部隊により、国内における米海兵隊との最大規模の実動訓練「レゾリュート・ドラゴン２４」を開始しました。大分県の日出生台演習場をはじめ、石垣島等、広域に展開して訓練し、日米の連携強化及び共同対処能力の向上を図ります。

大分県家族会が歓迎の横断幕設置↑

（４）　海上自衛隊掃海隊群は、６月２１日から２７日まで、硫黄島周辺海域で実機雷処分訓練及び掃海特別訓練を実施しました。

浮遊機雷処分

精悍
壮観
掃海部隊

処分艇発進

（５）　航空自衛隊は６月３０日から８月１３日にかけて、オーストラリア北部のダーウィン空軍基地で開催される共同演習「ピッチ・ブラック 24」に参加しています。参加部隊は第８航空団（築城）、警戒航空団（浜松）で、F-2A 戦闘機×6 機、E-767 早期警戒管制機×1 機、人員約 230 名が派遣されています。

（６）　山形県酒田市及び最上郡戸沢村等における大雨に係る災害派遣

７月２５日からの山形県等における大雨に関し、山形県知事から第６師団長に対し孤立住民の人命救助に係る災害派遣要請があり、陸上自衛隊第２０普通科連隊基幹の約５００名態勢で人命救助活動等を実施しました。

【主な活動部隊】

第２０普通科連隊、第６後方支援連隊、第６施設大隊、第６通信大隊、第６情報隊、第６偵察隊、第６飛行隊、東北方面航空隊、空自秋田救難隊、空自新潟救難隊

【主な活動】

航空機及び地上部隊による情報収集活動、航空機及び地上部隊による人命救助活動、地上部隊による行方不明者捜索活動、自力移動が困難な高齢者等の、避難所や病院等への避難支援活動、物資輸送支援活動、道路啓開活動、排水機場の復旧支援活動等

３　家族会の活動トピック

（１）　自衛官候補生等修了者を激励

修了式（青森県）

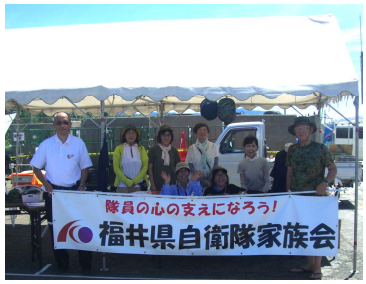
新山口駅で旅立ちを見送り（山口県）

（２）　第２２次派遣海賊対処行動支援隊を激励

７月２２日、栃木県古橋会長が宇都宮駐屯地で警衛隊長、警衛隊最先任と懇談・激励しました。見送りでは派遣されるお父さんが見えなくなるまで手を振っていたものの姿が見えなくなると泣き出す弟と、唇をかみしめて立派な敬礼で見送る兄といった光景が見られたとのこと。お父さんが任務を終えて帰国する半年後の成長が楽しみ。

（３）　福井県自衛隊家族会が艦艇広報に参加

７月７日、福井県家族会が福井港（坂井市）で行われた艦艇広報行事で、自衛隊グッズや飲料水の販売などで来場者とのふれあい活動を展開しました。



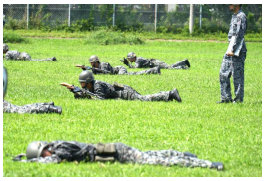
福井港では潜水艦「そうりゅう」と多用途支援艦「ひうち」、航空自衛隊の地対空誘導弾ペトリオット、陸上自衛隊からは軽装甲機動車が展示され、午前９時から始まった見学会は県内外からの家族連れなど４千人を超える見学者で賑わいました。　目玉は福井港に初めて入港した潜水艦です。さすが潜水艦だけあって、通常潜っていることからその行動もわからないとされていますが、どの型の潜水艦が来るのかは、前日の新聞で初めて知るという次第でありました。当日は暑い中、会場内での誘導や案内、駐車場での交通整理など、多くの若い隊員一人ひとりが任務を着実に遂行し、事業全体の運営にしっかりと寄与していることが伺え、頼もしい限りでした。

（４）　７月１９日、高知県家族会は高知新港で一般公開された海自輸送艦「しもきた」の入港を歓迎・激励しました。

猛暑の中県内外から訪れた４千人以上の観客で長蛇の列ができる中、高知県家族会女性部が売店を開設して自衛隊グッズ等を販売し、高知地方協力本部の艦艇広報及び自衛官募集に協力しました

（５） 川越市家族会が空自熊谷基地を研修

７月４日、川越市家族会１２名が空自熊谷基地を研修しました。本研修は、家族会の会員である、空自第４術科学校長兼熊谷基地司令の秋元空将補のお勧めにより実現したもので、摂氏３５度の猛暑の中を匍匐前進する訓練中の学生を目の当たりにし、秋元司令を囲んでの会食の他、訓練中の学生と参加した父母との対面、給養隊員と参加した母親との対面等、基地司令をはじめ、広報班二宮室長、松田中隊長ほかのご配慮で有意義な研修となりました。



（６） 家族支援協定締結

７月１９日、山口市において、山口県の海上自衛隊（岩国航空基地、小月教育航空群、下関基地隊）、山口県自衛隊家族会、山口県隊友会の５団体による「隊員家族支援に対する協力に関する協定」締結式が開催され、５団体の代表による協定書署名が行われました。

今回の協定締結により、山口県自衛隊家族会は、県内にある陸・海・空各自衛隊基地全てと締結が完了しました。

（７） 本部事務局　募集広報に協力

７月２２日、防衛省市ヶ谷地区厚生棟で募集広報のチラシを配布しました。チラシは隊員募集特に自主募集に焦点を当てたランチョンマットで、ランチ時に拡げて読みながら食事して貰おうというものです。

「この夏、身近な人に自得体を進めてみませんか？」前途有望な若者に是非入隊してもらいたいものです。

４　事務局からの連絡

（１） オリンピックパリ大会柔道に出場した体育学校新添選手は個人戦で７位、混合団体戦ではセルビアのペリシッチ選手に一本勝ちし、勝利に貢献しました。

（２） 防衛情報紙「おやばと」は８月号から印刷写真が鮮明になりました。
クッキリ鮮やかな紙面をご確認下さい。

暑い毎日が続いております、皆様くれぐれも体調にお気をつけください。

以上